

ほあけぼのちいあ の 「つれづれのまま」

たわごと「日本の仏教」

お釈迦さまは35歳で悟りをひらいたという。前にも書いた。悟りの中に「六道輪廻」があるという。

「六道輪廻」を云うのは将に釈迦に説法なれど一応知ったかぶりをして改めて書いてみる。

人は亡者になってと此岸（この世）から彼岸（あの世）へ逝くに7日間歩いて三途の川に辿り着くという。三途の川を六文銭を払って渡り七七日（いわゆる49日）の間に身体は滅んで無くなるものの魂は滅ばずさ迷い続けた後に六道（天道・人道・餓鬼・畜生・修羅・地獄）の何れかに何時までも何回でも死に変わり生まれ変わるのだという。

お釈迦さまの悟り・教えには、魂が無くなることは無いので、そこに伴う葬儀とかお墓とか法事などは無いとのことである。

お釈迦さまのお墓によく間違えられるのに「涅槃」がある。涅槃は各地にあり足利の行動山の奥にもある。

仏教はお釈迦さまの生地であるインドに端を発し小乗仏教が南へ、大乘仏教が北に向けて広がった。三蔵法師などによって中国大陸や朝鮮や半島を経て日本に伝わったのが日本仏教である。

後者が日本に伝わる過程において、何故だか中国で姿が変わった。中国の儒教と混在して葬式やお墓や法要が加わったらしい。

現在の日本の仏教は葬式仏教で葬儀やお墓や法要は欠かせない。なぜだかは云うまでもなく僧侶の職と寺院の経済的存続のために図ったかつての偉い坊さんの知恵である。

皆さんはお経の意味がお分かりでしょうか。

小生の生家は代々浄土真宗大谷派で仏事には必ず「勤行集」なるお経を皆して唱える。

「キミョームリョージュニョーライ ナムフカーシギコー ホーソーボーサイ・・・」耳なれたこれとそのメロディーは今もって残っているが意味はまったく分からない。

有名な般若新経の「ハンニヤハラミタ・・・」はどうでしょう。

お経は元々梵語（サンスクリット語）で作られていてその音（おん）を漢語に当てはめたとの説もある。これを日本に布教するさい日本語訳にわざとほ翻訳しなかったと。何故か。

日本語にすると有難みがなくなるからと。聞いても読んでも訳がよく分からないほうが有難みがあるということだ。

以前ある真言宗のお寺さんで大勢の坊さんの梵語によるお経の合唱？を聴いたことがある。意味はまったく分からなかったが朗朗としていて心地よく成程有難みをことさら感じた。

日本仏教をこんなふう斜に捉えてはご利益は期待できまい。

<この回 おしまい>